

私たちの町の文化財

■第12話 旅をした土器

前回、発掘調査の話が出ました。そこで今回は期待を高める意味で、これまでに見つかった貴重な土器について、紹介します。下に土器が2個並んでいます。どちらも古墳時代の中ごろ、今から1500年ほど前の土器です。右側の土器が当時の一般的な形ですが、左の土器はバケツのような形をしています。左側の土器、実はこれ朝鮮半島から来た土器なのです。今から7年前、城山下代2丁目で行った調査で出土しました。平らな底で、表面に板で叩き締めた痕跡がたくさんみられます。日常の生活で使用する土器であり、朝鮮半島からここに人が移ってきたことを示しています。はるばる旅をしてきた土器。この土器の持ち主は一体、どんな旅をしてきたのでしょうか。想像が膨らみます。上代・城山地域の発掘調査はいまだ回数が少なく、よくわからないことだらけです。発掘調査では思わぬ発見があります。どこに何が眠っているのか、誰にもわかりません。さらに城山の山頂には古墳もあり、古墳時代に大きな集落があったことは間違いありません。発掘調査の進展に期待しましょう。

熊本市文化振興課 林田和人氏

朝鮮半島から来た土器（左）

地元の土器（右）

